

実践例 「学習指導の深化・充実」

「課題5 個性の伸長を重視した指導計画・実践・評価の改善・充実」

I. 学校名 むかわ町立富内小学校

II. 研究の概要

- 1 研究主題 「やさしさ、たくましさ、かしこさをはぐくむ道德教育の推進」
～児童の心を揺さぶり、深く考えられる道德授業を目指して～

2 研究主題設定の理由

本校は昨年度より「特別の教科道德」の研究を進めてきた。昨年度反省より明らかとなった本校課題と目指す子ども像の大本となる「学校教育目標」を照合し、子どもたちに身につけさせたい力を育成するため、道德授業の充実を目指し、継続して「特別の教科道德」の研究を進めることとした。学校教育目標を具現化するために、児童一人一人が身に付ける必要がある力を育むために学校全般の教育活動が行われている。とりわけ道德教育の要となるのは、道德の時間である。その中では、主に次の活動が行われる。

- 様々な資料を通して登場人物の行動や生き方・考え方にふれ、共感したり批判的に見つめたり、行為の奥にある根拠を推し量る。
- 教師の発問や資料から、ねらいとする道德的価値に気づき、登場人物に自分自身を重ねたり、これまでの自分と今の自分を比べたりしながら自分なりの思いや考えをもつ。
- 他者の考えを聞くことで自分とは違う新たな感じ方や考え方があることを知ったり、様々な葛藤を経て自分自身の考えを深めたりしながら、人としてよりよく生きていこうとする。

このような活動で培われた道德的実践力を基盤にし、学校生活全般において、児童は自分の課題を解決していく過程で自分自身のよさに気づき、さらにはその課題をよりよく解決できた時に感じる達成感が自信となって自己肯定感を高めていく。そして、これらの経験を繰り返すことは、自己肯定感を高めるだけにとどまらず、他者を理解し受け入れ、ともによりよく生きようとする心の育成にもつながると考える。

以上のことから、道德の時間の指導を充実させることにより、本校の目指す子ども像を一人一人の児童に育成することができると考え、本主題設定とした。

3 研究仮説

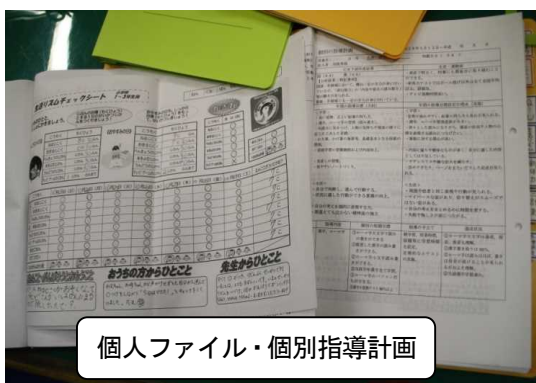
- ①小規模校ならではの少人数の特性を生かしたきめ細かな道德の授業を実践することで、より確かな道德的価値が育てられるであろう。
- ②道德授業や体験的活動（全校や地域と連携した活動、自然の中での体験活動等、本校独自の特色ある活動）を生かすことで、地域や児童の実態に即した特色ある道德教育が推進できるであろう。
- ③保護者や地域の人材を積極的に活用することで、児童の道德的価値や実践力がさらに高まるであろう。

III. 実践例

具体的な実践の基本的な考え方は、「極小規模だからこそできる活動に焦点をあて、より深く個別に指導、支援する。」ということである。事例として「個別の指導計画書と個人ファイルを作成、情報共有、引き継ぎ」、「指導案に個別のねらいを明記」、全校児童による「ソーシャルスキル学習」に取り組んでいる。これは、児童が道徳的価値を理解していても、児童自身のコミュニケーション能力（話し方、聴き方、お願いの仕方等）が未熟な場合、それを道徳的実践に還元することは難しいであろうという視点から実施したものである。異学年同時に行うため、発達段階への配慮などの課題もあるが、道徳的実践力を育む有効な手段と実感している。また、移動や活動に臨機応変的、即時に取り組める利点を生かし、型にとられない学校行事、校外学習等を数多く実践している。地域や保護者の方と交流し、一緒に活動する機会を増やす等、多くの人々と接することで多様な考えや生き方を知る機会を増やす。そして、授業づくりのためには教材研究や指導方法の研修、道徳ノートの活用方法、従来とは異なる構造的な板書づくり等にも取り組んでいる。

1 個別の指導計画、個人ファイルの活用

個別指導計画は、「児童の実態」「指導目標」学習・体力・心・生活面における「指導内容」と「短期目標」があり、学習や学期ごとに「達成状況」を書き入れ、「指導の手立て」を更新していく内容となっている。また、ファイルには、「個別指導計画」の他、「新体力テスト」「生活リズムチェックシート」「CRT検査」「HyperQU」「二計測」「各種検定」等の結果が蓄積され、経年比較がしやすくなっている。このような資料を活用することで、教科道徳においても、指導案への個別のねらいの明記や評価に生かされている。



個人ファイル・個別指導計画

(2)児童について
【個別の姿について】

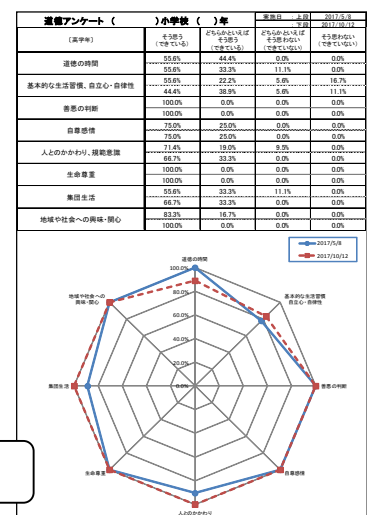
	4年生		5年生	
	H・K	A・N	Y・Y	
現 状	相手のことを考えた言動をとることができている。反面、自分の意思を強く主張することが少ない。	自分の気持ちや考えをはっきりと伝えることが出来る。一方、相手や周囲の考え、状況を考へて行動することが少ない。	自分の気持ちや考えをはっきりと伝えることが出来るが、言い方や言葉遣いに配慮が足りずに誤解を招くことがある。	
望む姿	相手だけでなく、自分の気持ちや感情についてはっきりと伝えるようにさせたい。	自分の言動が、他者からどのように見られるのかについて考えられるようにさせたい。	自分の話し方についてふりかえり、相手の気持ちに配慮しながら言葉を使うようにさせたい。	

指導案 個別のねらい

2 「道徳アンケート」や「理解支援ツール」の活用

道徳の評価にも繋げる視点から「道徳アンケート」や「理解支援ツール」を活用している。これにより、教師の主観だけでなく、児童自身が「道徳的価値感を理解したか、実践できているか」について自己評価できる利点がある。今年度はこれまで2回アンケートを実施した。その結果、児童自身の自己評価からは高まりやまだ十分ではない面等が見え、実態に応じた指導に繋げることが出来た。今後も継続して実施し、個人ファイルへの蓄積を進めていく。

道徳アンケートの活用



3 板書の工夫と道徳ノートやワークシートの活用

板書や道徳ノートは、児童が思考をまとめ、振り返りがしやすいものという考えに基づき、授業内容に応じたものになるよう工夫している。板書は毎時間ごとに、主題が意識できるような構造的な板書を目指している。ノートも日付や主題、教材名の記入は決まっているが、あとは一人一人の児童が自分の考えを自由に書き出していくメモのような役割で書かせている。決して美しいノートとは言えないが、自分の思考を整理してまとめるための大きな手段になっている。また、後々、同様の内容項目があった際にふりかえる様子もある。また、評価の資料としても有効であった。



4 地域や保護者と連携した教育活動の実施

極小規模校のため、人とかかわりが日常的に不足しがちであり、コミュニケーション能力の育成という視点からも、人とかかわる機会を意識した教育活動を進めている。その中で、接し方や社会性、場に応じた行動など、道徳的価値や実践力の高まりに結びつく様子が見られた。



最後の合同運動会 児童デザインのオリジナル記念Tシャツを着て地域の皆さんと記念写真



地域の方と協力しながら地域再発見遠足



ソーシャルスキル学習 「貸して」と言われ、貸したくない時の断り方



地域のお年寄りとの交流



地域イベントに参加、手作りの葉を出品し販売



学芸会 地域のオヤジバンドとセッション



I C T 大分県の小学生と定期的に交流

IV. 成果と課題

1 成果

- ① 「道徳アンケート」や「理解支援ツール」を用いた意識調査を実施し、個別の意見を丁寧に取り上げ、実態に応じた指導に繋げることが出来た。自己評価では、道徳的価値が上昇したものがあつた。板書の工夫や道徳ノートやワークシートの活用で、児童が思考をまとめ、ふりかえりやすく、評価の資料としても有効であつた。
- ② 学校や地域行事への参加機会を増やし、道徳的実践を体験的に行うことができた。また、教材や資料に児童が体験したことや既知の言葉を使うことで、イメージしやすい授業を行うことができ、実態に即した特色ある道徳教育を推進することが出来た。

2 課題

- ① 教科道徳において、少人数のために出てくる意見の種類が少ないため、教師側から他の考え方を様々な形で児童に提示してきたが、教師の価値観の押しつけにならないよう十分な配慮が必要である。また、異学年同士で授業を行う場合の内容項目扱いについて、工夫が必要である。
- ② 親子道徳、授業参観時での道徳授業は実施したが、地域行事や地域素材の掘り起こしや活用についてはまだ工夫が足りない側面も見られたので、今後も改善活用を進めていく。